

香川 全研ニュース 第三号

認知症の人と家族の援助をすすめる

第39回全国研究集会再度の誘い

多くの不安を感じながら10月22日全研開催日を迎えようとしています。

最後まで一人でも多くの人が参加していただけるよう実行委員の方を中心に関係者が時間を惜しむように動いて下さっています。出来ることならば地域の皆様方、時間を空けていただけないでしょうか。もしかしたら、今までとは違った視点で見慣れた環境を観てみると、今まで生活した環境とは異なった様に観えるかも知れません。

体験・実践のきっかけは周りの人から与えてくれる。

幸せになるかじ取りは貴女しか出来ない

全研に参加し、幸せのかじ取りが出来ますように

家族みんなが幸せになれますように

生活を営むには、多くの立場の人との関わりなくして成り立つことはない。幼い子供から老いた人まで例外はない。一見誰も力を借りなくても生活できるような、若い人も含めてである。

高歳になっても介護が必要になっても、必要とされる関わりが社会の中の人々に出来るようになりたい。そのきっかけを創る全研にしたいと念じている。

【認知症の新薬について】

基調講演「認知症の新薬について」期待と共に利用していいものか、利用しない方がいいのか迷っている方が多くいるのでは。基調講演で話を聞き、少しでも良い選択が出来ることを願っている。

760-0080

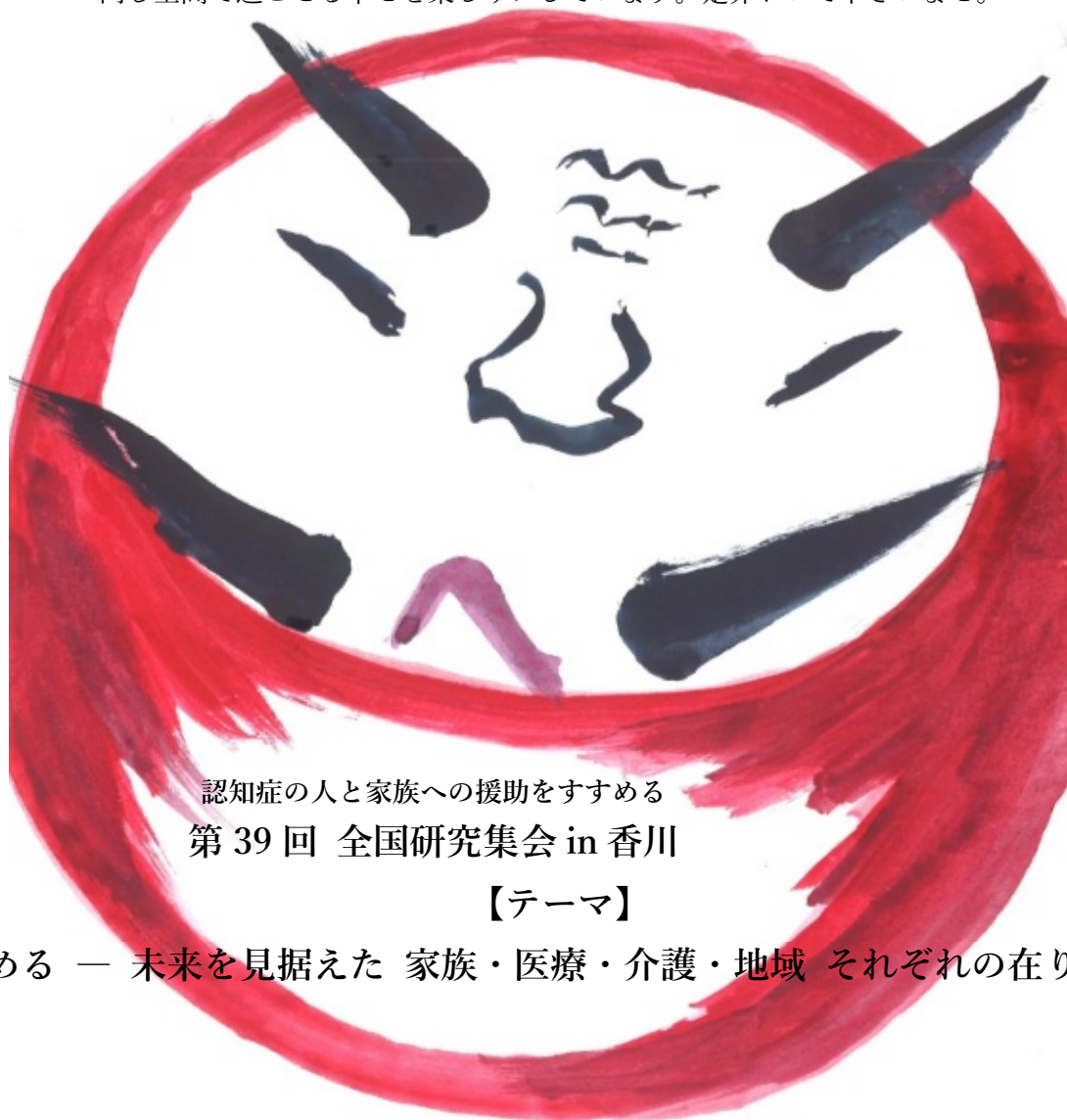
香川県高松市木太町 3127-1

なかよしマンション木太202号

認知症の人と家族の会 香川県支部

香川 全研ニュース 第三号

もうすぐ全研。お会いでき、お話ができること。触れ合うことができること。
同じ空間で過ごせる幸せを楽しみにしています。是非おいで下さいませ。



認知症の人と家族への援助をすすめる
第39回 全国研究集会 in 香川

【テーマ】

創^{はじ}める — 未来を見据えた 家族・医療・介護・地域 それぞれの在り方 —

基調講演

「認知症の新薬について」

香川大学医学部附属病院 精神科神経
科 教授

中村 祐 氏

スポンサードレクチャー

「スマホと認知症」

おくむらメモリークリニック 理事長
奥村 歩 氏

「認知症の人と家族のための
ワクチン接種」

一般財団法人阪大微生物病研究会

総務人事部長

杉本 有一郎 氏

体験・実施発表

介護を創める ～認知症の妻
と共に歩んで過ぎた日々～

香川県

<若者の力、高齢者の力、共生
社会に向けて> — 認知症カ
フェと社会参加しづらい若者
との連携—

愛知県 石川 理重子 氏

高知市および高知県内におけ
る認知の本人・家族・関係機関
共創による 認知症フレンドリ
ーなまちづくり

高知県 山中 しのぶ 氏

在宅介護と仕事との両立、そし
て看取り

大阪府 国松 祐子 氏

シンポジウム

「創る(つくる) Tsukuru 」
～認知症の人が望む環境をつ
くる～

座長：角 徳文 氏

(香川大学医学部附属病院 臨床心理
学科精神医学講座 教授)

中村 祐 氏

(認知症の人と家族の会 香川県支部 世話人)

前田 隆行 氏

(NPO 法人 町田市つながりの開 DAYS
BLG! 理事長)

朝田 加奈子 氏

(三豊市立西香川病院 精神保健福祉士)

松木 香代子 氏

(認知症の人と家族の会 香川県支部 世話人
代表)

香川 全研ニュース 第三号

【弘法大師】

香川県だけでなく 四国だけでなく

全国に弘法大師の逸話が残っている。約1250年間 時代と共に忘れられることなく、地域の皆様方の心の中に残っている。

弘法大師は大望を抱き、律しながら全ての人に対して優しさ・厳しさを示された方なのでは。

香川県にも多くの逸話が残っているが、私の生活の中に於いても弘法大師の話が残っている。

(時代と共に語り継がれた話)

屋島寺に行く道すがら、喉が渴いたので道端の梨の木の実を一ついただけないかと言うと、村人は「この梨は食べられない梨なんだ」と言っただけ。

弘法大師が去った後、おいしい梨が本当に食べられない梨になったらしい。

千年以上前の話であるが、その時代・時代に語り継がれ梨の木が枯れると新しい梨の木を植えて語り続けられた。

現在は「くわすの梨」と示すだけで、梨の木は植えられてはいないが、八十八ヶ所遍路路を歩くと目に留まる。ひととき足を止め、梨の木の逸話を思い出すのも楽しい物です。

(なぜだろうか)

なぜと問いかける楽しみを一緒に味わいませんか

なぜ 八十八ヶ所一番札所は善通寺からではなく徳島からなのであろうか

なぜ 八十八ヶ所 最後の札所は善通寺ではなく大窪寺なのであろうか

なぜ 札所寺が並んだような所にあるのであろうか

一日歩いても寺から寺へ行けない所もある。なぜなんだろうか

一つひとつ紐解いてみるのも楽しい。なぜ、この地に札所寺なのだろうかと

きっと、弘法大師は人とはどういう特質をもっている生き物であるか誰よりも知っている。きっと寺を造るにあたって考えつくした結果、今の八十八ヶ所札所寺がある。

(八十八ヶ所 逸話でなく 実話)

カフェ「思音」に来ている御主人の話である。

若い時、近所の人に頼まれて八十八ヶ所巡りをした。

寺から寺へと歩く道は今のよう整備された道ではなく歩きにくかったらしい。

頼んだ人が言うには、家族の一人が足が丈夫ではなく長く歩くことが出来ない。足が丈夫になるように八十八ヶ所に行きたいと。会社の休みを利用して、手を取り合って時間をかけて八十八ヶ所に行った。

今では頼んだ人が亡くなり、足が丈夫でなかった人が元気に生活している。もちろん元気に歩いている。100歳を過ぎても元気である。

人間の力では説明できない、人と仏・神が力を合わせた不思議な話である。

お話終わり

御主人さんの話を聞くと心がおどります。楽しくて、生きていくのが楽しくなります。

彼は「思音」に来て話をしたり、草を刈ったりしてくれる。もちろん話上手である。

聞く人を笑顔にしてくれるし、人を知識で傷つけることもしない。

多くの事を知っている事によって、人を傷つける人がある。他人を傷つけていることも気付くこともなく、相手を傷つけることがある。

同じ言葉であっても、結果は右と左に分かれる。

彼は聞く人を幸せにしてくれる知識・経験を身に付けている。

彼は「思音」にとって欠かすことの出来ない人と言える。

ポスターセッションでは、毎週土曜日10時から16時まで

第3土曜日飛び入り大歓迎の食事会の様子を皆様方に伝えます。きつき「思音」の考え方が全国に広がることを願ってのことです。素人の集まりが専門職・全国の会員さんに伝えます。

もし、興味をもち支部活動を全国に発信したいと思われるのであれば、今でもかまいませんのでポスターセッションに手をあげませんか。お待ちしております。



760-0080

香川県高松市木太町 3127-1

なかよしマンション木太202号

認知症の人と家族の会 香川県支部